

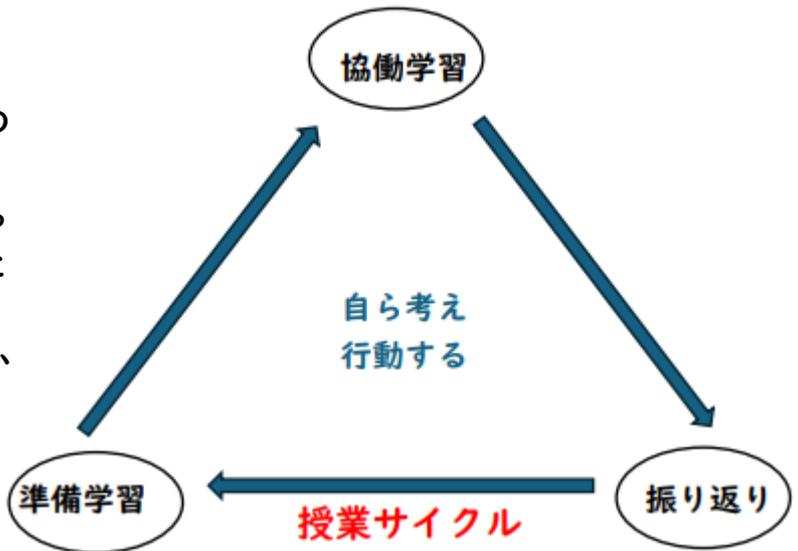
(1) 矢掛中学校の自己調整学習

1 「矢中の授業サイクル」

授業の中で、「準備学習」「協働学習」「振り返り」のサイクルを進め、次時の準備学習に繋ぐ。

「準備学習」では、授業に興味をもったり、自分なりの目標をもったりすることができる。「協働学習」では、多様な他者との協働によって、課題解決に向かう。「振り返り」では、自己評価等をもとに次時へのつながりを考える。

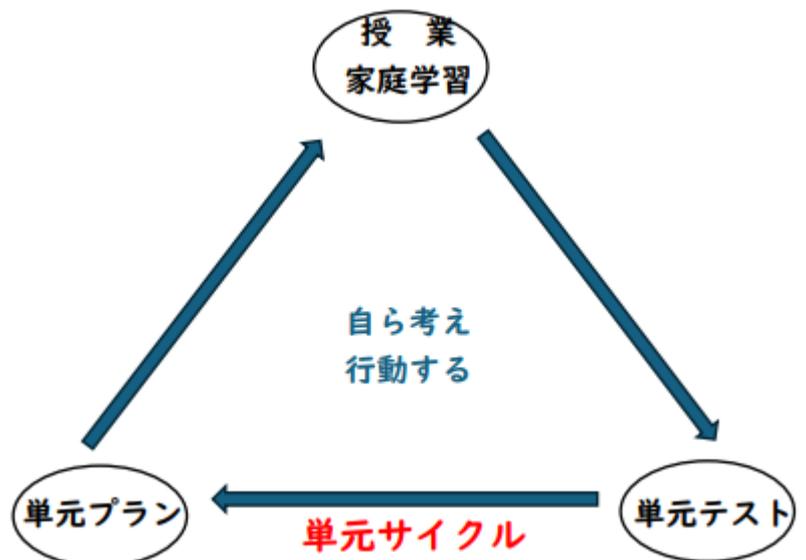
毎時間授業サイクルを進めることで、自己調整の習慣化を促進する。



2 「矢中の単元サイクル」

生徒は「単元プラン」を理解することで、単元全体の見通しをもつことができる。単元のねらいを達成するために、自分なりの計画を立てる。授業や家庭学習において自分に合った「学習方略」で学びを深め、単元テストに臨む。

単元テストの結果をもとに自己評価を行い、再テストにチャレンジしたり、次の単元の学習に生かしたりする。

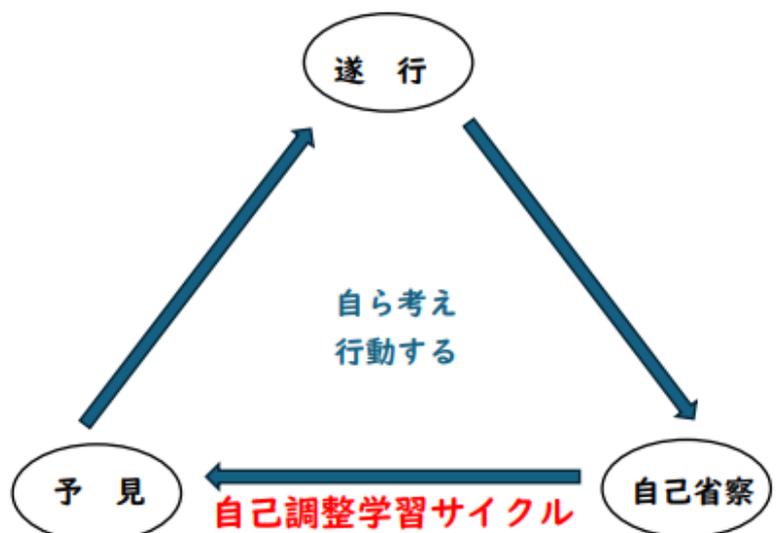


3 「自己調整学習サイクル」(ジーマーマン)

矢掛中学校では、「自ら考え行動する」ことのできる生徒を育成するため、自己調整学習のサイクルを進めることができる力を身に付けられることを目指している。

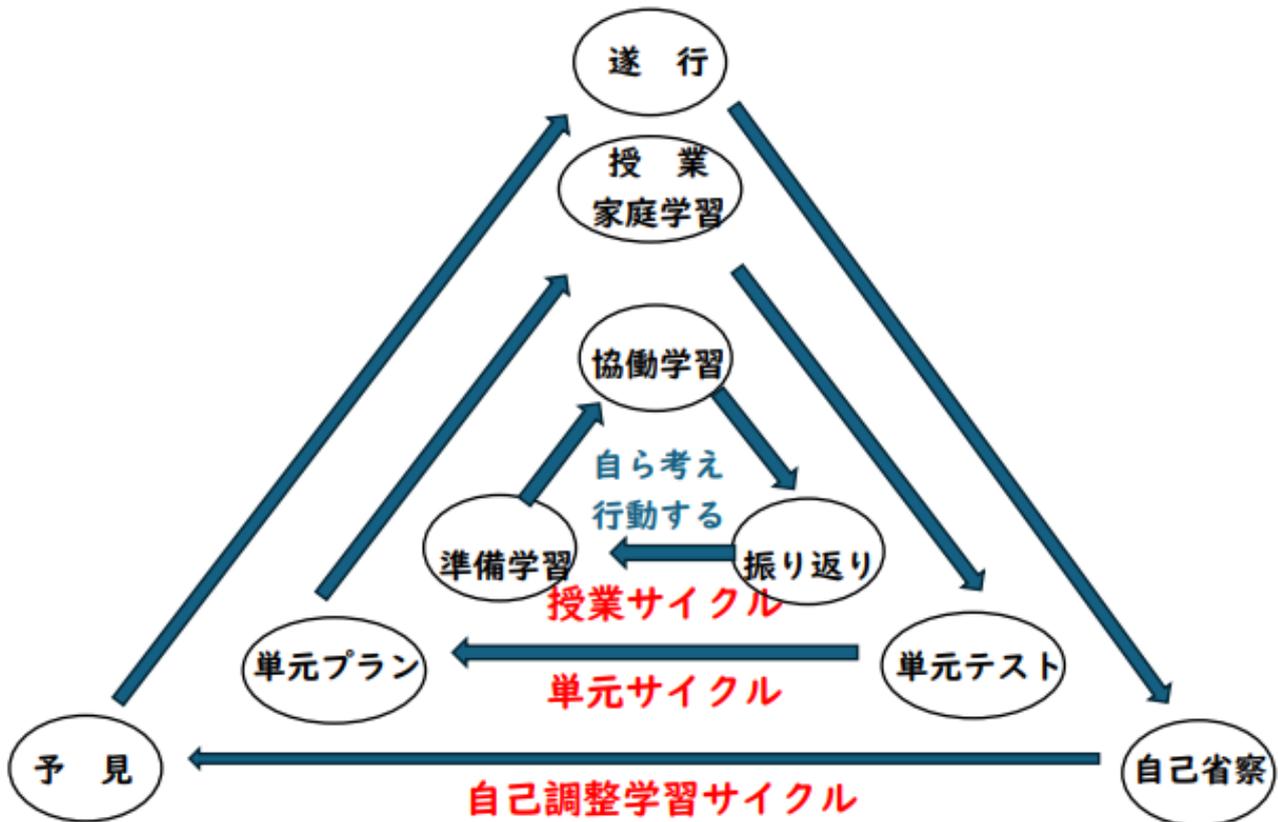
自己調整学習では、学習活動の基盤として「予見」「遂行」「自己省察」というサイクルが想定される。

自己調整学習とは、学習者が自分自身の学習活動に能動的に関わり、自らの学習を調整する学び方である。自己調整学習サイクルを進める学習者は自分自身の立てた目標を達成するために、学習に対する意欲や学習方法を自ら観察、調整し、効果的に学習を進めていくことができる。



4 矢掛中学校の「自己調整学習サイクル」

「矢中の授業サイクル」「矢中の単元サイクル」を進める習慣を身に付けることによって、学習全般に自己調整学習を生かすことができるようになる。「自己調整学習サイクル」を進める習慣は、変化の激しい社会に対応しながら、幸せな人生を歩いていく上で、生徒にとって重要な役割を果たすようになる。



5 自己調整学習が成立するための3つの要素

(1) 動機づけ

いかにして、動機づけを主体的に学びに向かっていくための良好な状態に持っていか、ということが大切です。勉強を始める前、学習の最中にも、自分自身のモチベーションを保ったり、学習後には積極的に自己評価し、次の学習にも向かおうとしたりすることも必要です。

(2) 学習方略

端的に言えば、学習方法ということになります。認知的には「どのように覚えるか」「どのように理解するか」、情意的には「困難な課題に対する時にどのように気持ちを学習に向かわせるか」といった方略です。重要なポイントは、学習者自身が自分に適した学習方略を構築することです。

(3) メタ認知

メタ認知は、モニタリングとコントロールという2つの段階に分けることができます。自分自身を客観的に観察するという段階と、そのうえで自分自身の学習行動を改善するという段階です。いまの自分がどのような状態なのかを理解するということが必要になるのです。

これら3つの要素をとおして自らの学習に能動的に関わっていくことで主体的な学びを実現する、というのが自己調整学習で目指している方向性です。